19　予言を信じさえすれば　 　　　　　　　　文法　否定形②　部分否定と全部否定

読解 内容を正しくつかむ

不思議な力を持つという女性は、の父を助けた後、なぜか姿を消していたが、ある時に向かう縦の前に突然現れ、縦に話しかけた。

　　、「郎　君　大　、①レ　レ。」薬　一　一、㆓　　　　　　　　　一レ　、「来　年、火　　　　レ　　、㋐方　㆓　　　。　　　　　　　　　　薬　力、　　一　　　。」縦 ②不㆓ ㆒。㆓　　　㆒。隠　娘　 レ　所レ 、　沈　　而　。後　一　年、　不レ 　レ　　、　㋑㆓　于　陵　㆒。③レ　此　㆕ 　㆔　 隠　㆒矣。

* 語注

郎君＝若様。ここでは縦のこと。

洛＝洛陽。当時の都であった。

保＝（災いから）守る。

繒綵＝絹織物。

【原文】

語　縦　曰　、「郎　君　大　災、　不　当　適　此。」　出　薬　一　粒、　令　縦　呑　之　云、「来　年、火　急　抛　官　帰　洛、　方　脱　此　禍。　吾　薬　力、　只　保　一　年　患　耳。」　縦　不　甚　信。　遺　其　繒　綵。　隠　娘　一　無　所　受、　但　沈　酔　而　去。　後　一　年、　縦　不　休　官、　果　卒　于　陵　州。　自　此　無　復　有　人　見　隠　娘　矣。

問一　次の「内容わしづかみ」の空欄に本文中の漢字を書き入れよ。

隠娘は縦に〔　　　〕があるので、〔　　〕を与えて帰るように忠告した。縦は〔　　〕じず、〔　　　〕後に、不幸な目にあった。

問二　波線部㋐の読み方を、送り仮名も含めてひらがなで答えよ。（現代仮名遣いでよい。）〈４点〉

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問三　波線部㋑のここでの意味を答えよ。〈４点〉

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問四　チェック問題　　［否定形②　部分否定と全部否定］

⑴次の表を完成させよ。〈１点×５〉

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 不㆓㆒ | | 不㆓ ㆒ | | 不㆓㆒ | | 不㆓ ㆒ | |
|  | 復た～〔せ〕ず |  | 復た～〔せ〕ず |  | 常に～〔せ〕ず |  |  |

⑵次の文を書き下し文にせよ。〈２点〉

進者**未必賢**。　（進者＝昇進する人）　　　　（論衡）

〔進めらるる者　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問五　傍線部①の解釈として最も適当なものを選べ。〈６点〉

ア　陵州へ行かなければならない。

イ　陵州へ向かうのはよくない。

ウ　洛陽を越えて南へ行く必要がない。

エ　洛陽に進んで行かざるを得ない。

　〔　　　〕

問六　傍線部②について、

⑴書き下し文にせよ。〈５点〉

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

⑵適当な言葉を補って現代語訳せよ。〈８点〉

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問七　傍線部③の解釈として最も適当なものを選べ。〈８点〉

ア　このために、人々は隠娘を見つけることはできなかった。

イ　このために、人々は決して隠娘を探すことはなかった。

ウ　この後、二度とは隠娘を見た人はいなかった。

エ　この後も、今までどおり隠娘に会おうとしなかった。

　〔　　　〕

問八　本文の内容に合致するものを一つ選べ。〈８点〉

ア　隠娘は、状況と薬の力を理解しない縦に、薬を与えなかった。

イ　隠娘は、縦が災いから逃れるためには辞職が必要だと助言した。

ウ　縦は、一緒に帰ろうという隠娘の提案に乗らず、陵州へ向かった。

エ　縦は、隠娘と話した後、お礼をしなかったために不幸にあった。

〔　　　〕

【解答】

問一　大災／薬／信／一年

問二　まさに　　問三　死ぬ〈各４点〉

問四　⑴〈１点×５〉

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 不㆓㆒ | | 不㆓ ㆒ | | 不㆓㆒ | | 不㆓ ㆒ | |
| 今回もまた～しない。【全部否定】 | 復た～〔せ〕ず | 二度とは～しない。【部分否定】 | 復た～〔せ〕ず | いつも～しない。【全部否定】 | 常に～〔せ〕ず | いつも～するとは限らない。【部分否定】 | 常には～〔せ〕ず |

⑵　未だ必ずしも賢ならず。〈２点〉

問五　イ〈６点〉

問六　⑴　甚だしくは信ぜず。〈５点〉

　　　⑵　縦は隠娘の忠告をそれほどは信じなかった。〈８点〉

問七　ウ　　問八　イ〈各８点〉

【現代語訳】

縦に告げて言うには、「若様には大変な災難がかかっています、ここ〔＝陵州〕に行くべきではありません。」と。薬一粒を取り出し、縦にこれを飲ませて言うには、「（縦は）来年、大急ぎで辞職して洛陽にお帰りになるなら、まさしくこの災いから逃れるでしょう。私の薬の効果は、ただ一年間災いから守るだけです。」と。縦は（隠娘の忠告を）それほどは信じなかった。（そして）絹織物などを贈った。（しかし）隠娘は一つも受け取らず、ただ深く酒に酔って立ち去った。それから一年たって、縦は官職を辞めず、ついに陵州で死んだ。この後、二度とは隠娘を見た人はなかった。

【書き下し文】

にげてはく、「あり、ににくべからず。」と。をだし、をしてをましめてふ、「、にをちてにらば、にのひをせん。が、だのひよりするのみ。」と。だしくはぜず。のをる。もくるく、だしてる。、はをめず、たしてにす。よりたのをることるし。

【補充問題】（＊行数は本書に対応）

問１　「大災」（１行目）と同じ意味で用いられている語を、本文中から二つそれぞれ一字で抜き出せ。

問２　「令縦呑之」（２行目）を書き下せ。

問３　「但沈酔而去」（５行目）とあるが、この時の隠娘の心情として最も適当なものを選べ。

ア　思いがけず縦と再会でき、また縦が出世したことを、喜んでいる。

イ　縦の父昌裔がその場にいないということを知って、深く悲しんでいる。

ウ　贈り物で隠娘の機嫌を取ろうという縦の浅はかさに、いら立っている。

エ　自分の忠告に縦が従わないであろうことを予見して、落胆している。

【補充問題解答】

問１　禍・患

問２　縦をして之を呑ましめて

問３　エ